

# XOOPS による地域経済研究センターのホームページ

安田伸一

佐賀大学経済学部

yasudas@cc.saga-u.ac.jp

## 1. はじめに

佐賀大学経済学部 地域経済研究センターのホームページ(<http://cres.eco.saga-u.ac.jp/>、次ページ 図 2)では、2004 年 10 月からコンテンツ管理ソフトウェアの XOOPS を利用しています。

地域経済研究センターのホームページには、「佐賀地域経済研究会」や「ウォッチング佐賀」などの催し物への参加募集が掲載されます。XOOPS を利用することにより、担当者はブラウザだけで情報を追加できるようになりました。現在は、「お知らせ」や「参加募集」、「行事予定」に整理して情報提供を行っています。

従来の地域経済研究センターのホームページは、HTML ファイルを特定の共有フォルダに保存する方式でした。この方式は Web ページの作成者が自由に HTML エディタを選択でき、最大限の自由度で Web ページを作成できます。しかし、新しいお知らせを掲載することに Web ページを作成するため、作業になれていない人が担当できず、またページの形式が統一されないなどの問題がありました。コンテンツ管理ソフトウェアの利用により、ページ設計の自由度は失われましたが、定型的な情報提供の作業が簡単になり、形式も統一できました。本稿では、地域経済研究センターの XOOPS により、情報提供インタフェースとしてのコンテンツ管理ソフトウェアの利用方法の事例を報告します。

## 2. XOOPS について

XOOPS は、「ズープス」と読み、小野和巳氏と Goghs Cheng 氏によって開発されたオープン・ソースのコンテンツ管理ソフトウェア(CMS)です。ソフトウェアは XOOPS プロジェクト(<http://www.xoops.org/>、図 1)によって提供されています。



図 1 XOOPS ロゴ

XOOPS 日本公式サイト(<http://jp.xoops.org/>)で「コミュニティサイト構築ソフト」と紹介されているように、本来はオンラインで会員登録したユーザが相互に情報交換するためのソフトウェアです。XOOPS プロジェクトのホームページも、当然、XOOPS で提供されています。

XOOPS は、コミュニティへの参加手続きを行う会員登録と、登録された会員が記事やファイルなどを登録して、サイトを訪れた人に情報を提供する機能や、あるいは会員だけに情報を提供する機能があります。会員だけが記事を読めるところは、パソコン通信を思い出させます。



図 2 XOOPS による地域経済研究センターのホームページ

XOOPS でコミュニティへの参加手続きを行う会員登録は、自動的に受け付けることも、管理人が目を通した上で受け付けることもできますが、完全に停止することもできます。地域経済研究センターのホームページでは、情報提供の担当者を「会員」として手動で登録して、それ以外の会員登録を受け付けないようにしています。担当者は、「会員」としての権限で XOOPS に記事を登録します。このように会員登録を制限することで、XOOPS をコンテンツ管理ソフトウェアとして利用できます。地域経済研究センターのほかにも、かわったところでは衆議院議員の安倍晋三氏のホームページ(<http://www.s-abe.or.jp/>)が XOOPS をコンテンツ管理ソフトウェアとして利用しています。

XOOPS は、基本的な機能がモジュールとして提供されます。期限付きのお知らせや会員限定の電子会議などが基本モジュールとして提供され、さらにカレンダーや参加申し込み機能つきの催し物案内などが追加できます。管理者はホームページで利用したいモジュールを選び、配置を指定すれば XOOPS のページが完成します。

### 3. 地域経済研究センターのホームページ

地域経済研究センターのホームページでは、センターの活動紹介と、催し物の案内、過去の催し物の記録、調査研究報告書などを提供します。ホームページの XOOPS 化にあたり、資料の実体は「地域経済研究センター 資料室(<http://creslib.eco.saga-u.ac.jp/>)」に移動して、センターのホームページは活動紹介と催し物の案内を掲載します。

#### 3.1 催し物の案内

トップページの三つのブロック(左側の「ミニカレンダー(行事予定)」、右側中央の「参加募集」と「新しいお知らせ」)が、地域経済研究センターの催し物を案内する部分です。

これらのモジュールは、ログインしたユーザが記事を投稿して自動的にホームページに表示されるように設定されています。XOOPS をコミュニティ・サイトとして運用する場合には、投稿された記事を査読後に表示する設定が多いかも知れませんが、XOOPS では掲載基準として査読なし(承認なし)の掲載を選択できるために、モジュールを管理する管理者権限と記事を投稿する会員権限を使い分けられ、コンテンツ管理ソフトウェアとして使いやすくなります。

地域経済研究センターでは、参加者を募集する四種類の催し物を開催しています。

- ウォッチング佐賀 学生・教職員を対象に、学外の事業所などを見学する。
- 市民版・ウォッチング佐賀 市民にも参加を呼びかけるウォッチング佐賀
- ゆつつら～と街角大学 ゆつつら～と館で行われるミニ講義。旧「佐大教官と語ろう」
- 佐賀地域経済研究会 自治体、民間、研究者による地域経済問題の研究会

「ゆつつら～と館」は、佐賀市呉服町商店街にある佐賀大学まちづくりサテライトです。これらの催し物を行う場合には、催し物の予告や内容の紹介などの告知、それぞれの催し物の参加募集の受付が必要になります。また、継続して催し物を行っているので、これから行われるの催し物の一覧の必要性も指摘されていました。新しい地域経済研究センターのホームページでは、告知を「お知らせ」として、参加募集の受付を「参加募集」として、催し物の一覧を「行事予定」と「今後の予定」、

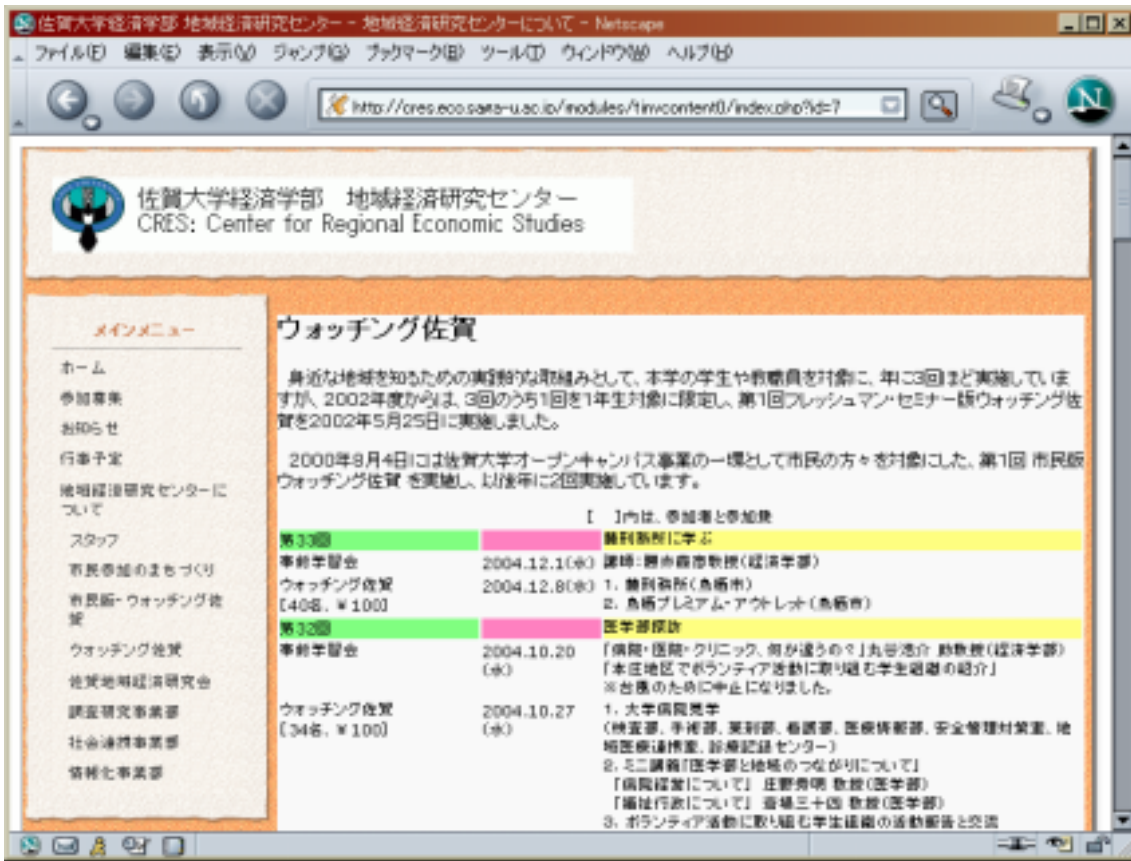


図 3 Tiny Content による紹介ページの作成

「ミニカレンダー」として整理しました。

「お知らせ」は標準モジュールのニュース・モジュールを利用しました。ニュース・モジュールでは、トップページに最新のお知らせ項目を一行ずつ表示して、項目をクリックすると詳細情報が表示されます。また、記事に掲載期限を設定でき、期限の過ぎた告知は自動的に表示されなくなります。

「参加募集」は安富伸浩氏によるイベント案内モジュールを利用しました。イベント案内モジュールには催し物開催日時の項目があり、開催日時で並べ替えられて表示されます。小さな違いですが、ニュース・モジュールが掲載日時を並べ替えのキーにするのと違い、開催日時が独立していることは、参加の案内としては重要です。また、地域経済研究センターでは利用実績がありませんが、イベント案内モジュールには、オンラインでの申し込み受付の機能があります。

催し物の一覧は、Peak Corp. による piCal モジュールを用いています。トップページでは、左側の「行事予定」と「ミニカレンダー」、右側の「今後の予定」として表示されます。piCal モジュールの「今後の予定」表示もイベント案内モジュールと同じように開催日時で並べ替えられますが、募集を開始していない催し物の案内もありますから、情報が重複しても役割分担されています。

### 3.2 地域経済研究センターの紹介

地域経済研究センターの紹介は内容の変化の少ない部分なので、管理者権限で更新するモジュールを使って HTML で作成しました。

ホームページの右上ブロックの「いらっしゃいませ」と右下ブロックの「資料集」、左側メニューの「地域経済研究センターについて」を使って、地域経済研究センターを紹介します。

右上と右下のブロックは、管理者が作成する静的なコンテンツです。管理メニューで「SYSTEM ADMIN」の「ブロック管理」から新規に作成することができます。

左側メニューの「地域経済研究センターについて」(図 3)は、CHAPI 氏による Tiny Content という追加モジュールを利用しました。Tiny Content は、HTML を XOOPS 中に表示するモジュールで、以前のホームページで利用していた催し物の記録(市民参加のまちづくり、市民版・ウォッチング佐賀、ウォッチング佐賀、佐賀地域経済研究会)を、若干の手直しだけで利用できました。

#### 4. 従来の方法との比較

従来の地域経済研究センターのホームページは、Web サーバのドキュメント・ルートを Samba で公開し、Windows パソコンから共有フォルダの HTML ファイルを編集していました[1]。冒頭に述べたように、この方法は自由な Web ページの設計とディレクトリ構成を実現します。

しかし、HTML エディタの操作になれるまで作業ができないことや、提供する情報をひとつひとつ個別に作成するために、形式の不統一や一覧性の悪さが問題となっていました。XOOPS を利用することで、ページ設計の自由度はなくなりましたが、訓練なしに作業に取り掛かれることと、piCal カレンダー・モジュールを利用した催し物の一覧性の向上を実現できました。

#### 5. むすび

催し物の告知と参加の募集という限られた用途のホームページは、用途に合わせた定型的な機能を組み合わせるコンテンツ管理ソフトウェアで容易に実現できました。

用途を限定することは重要です。地域経済研究センターのホームページを更新するとき、Namazu を用いた全文検索や複数の PDF ファイルに分割された調査研究報告書の提供は、資料室(<http://creslib.eco.saga-u.ac.jp/>)としてサーバを分離しました。これによってホームページの役割が単純になり、コンテンツ管理ソフトウェアが提供できる機能の範囲内で実現できました。

今後、学部ホームページの役割を整理して、可能なら導入を検討したいと考えています。

#### 参考文献

- [1] 安田伸一, “社会科学系教官にやさしい WWW サーバの運用,” 平成 13 年度 情報処理教育研究会講演論文集, pp.534-536, 2001.

佐賀大学学術情報処理センター広報 第 2 号 (2005 年 3 月) に掲載